

広報かわにし

発行所 川西町役場
 発行者 中村壮吉
 編集人 金子南風
 印刷所 白南

人口の動き	
(1月1日現在)	
男	7,390人
女	7,597人
計	14,987人
世帯数	2,764世帯

ついで新年のおよろこびを申しあげます。
 新しい町づくりに向かつてすすんで来たわが川西町にも、合併以来いつしか三年の歳月がながれました。いまここに、新しく昭和三十四年を迎えました。心の中に、町長としての新たな抱負がわきあがっていきまぬので、きわめて多難な問題が待ち構えているかと思



川西町長 中村壮吉

うのでございます。
 すなわち学校建築をはじめとする学校社会教育面の充実や、公民館活動の促進とか、下条橋の架橋問題や道路の整備復旧、農業の町としての農業振興策など、予算編成までに皆様の声を十分にお聞きし、議会とよく相談いたしまして、将来に誤りのない方針を立ててゆきたいと考えてございます。
 町の財政面も、災害復旧や建設事業をかかえまして、なかなか容易なことではございませんが、こ

れも財源をよく検討したり、本年度予算の収支にバランスをとつたりました。ことしも心配のいらぬ、明かるい見通しを立てるべく決意いたしております。
 申すまでもないことながら皆様の御協力があつてこそ、すべての町行政が円滑に遂行されてゆくのでございます。このためには、住みよい町にみんなが健康で、幸福な生活をしてゆくことができま

年頭のことば

川西町長 中村壮吉

すよう、国保衛生や社会福祉面の施策につきましても、よく考慮してゆくつもりでございます。
 事務的な面では一般役場事務をはじめとして、戸籍の改製や土地調査など、たくさん仕事があるものでございますが、職員とともに力を合せて、明かるい町行政の執行にあたる所存でございます。
 皆様の御多幸を心から祈念申しあげ、ことしもよりいつその御支援と、お力添えがただけまですようにお願いしてやみません。

町づくり

れんめんとして尽きない川西の山河に、また平和な新しい年が訪れてくれた。
 宇宙時代とまでいわれる激しい世の中にあつて「新年おめでとう」と、口にするのできたわたくしたちの心に、生きることの喜びがしみじみとわきあがってくるのであ

る。▲昔から一年の計はガントクにある。といわれて、この月の計画はこの月に立てるものとされてきたが、だいたいふんの人のはつたりとした計画を立てないまま、毎日ゆきあたりはつたり式に過してはいるのではないかと思われてならない。▲「毎日毎月の生活に計画がなくて、ゆきあたりはつたり式に過してはいるのではないか」といふ、この町の三十五パーセントに

及ぶ人たちは、ことしこそソツカリと、合理的なわが家の生活設計を立ててほしい。▲日常の計画ができていないと、いくら働いてもヒマがうまれてこない。だから忙しくて、自分の生活をふりかき余裕もなく働く、毎日これをくりかえすから疲れてしまうというのであつては、何のためにこの世に生まれてきたのかわからない。▲あるオカミサンは「オライそがしくてこうしていられない」とい



(写真は町会の院上にて、柳本秀助撮影)

に、それが「いそがしい」という名のカケにかくれて、見のがされている場合が多いのである。▲「毎日クタクタになるまで働いて、ヤレヤレと思つて帰宅したトタンに、今夜寄合があるといわれても、ついメンドウクサイが先にたつて、出かけるのもおつくうになつてしまふ……」こんなさやきもあちこちで聞かれる。貴重

な人間の一生があけくれこんなこととで終るとしたら、わたくしたちは何と大きなアナクロニズムへ

新春

須藤茂一

雪の山なみゆるり、
 節黒城址の松風に
 歴史の詩をきく
 ひろがる田原
 ととのう町なみ
 処女誓に朝日輝くところ
 進め 新世代の若人たち
 いま古き魂像は うすれゆく

あわ われら
 新春の大地に向つて祈るう
 わが山里の寒り豊かに
 わが里人に幸あれと

でも、家族会議に切り替えてみたらどうだろう。▲いちどに全部を望むことができれば、簿記一冊だけをとり上げてよいだろう。それがおかあさんの仕事としてたいへんだつたら、家族みんなが協力してゆけばよい。金の使いかたがためだつても、計画的になつたことや、おとうさんだけ家の経済がわかつてあはれも知らなかつた。というようないままのありかたが、一つ一つ反省されるだけでもその意義は深い。▲「あのころもつとこうやつておけばよかつた」と後悔する人は多い。けれども、再びとりかえすべくもないのである。たつた一つしかない、いつか命を、いつかどうやつて暮らしていつたらいいん「しあわせ」になれるか。ということをおまへんでよく話し合つてみよう。今からでも決して遅くはない。

ワタシも、家も、町内も、職場も、ことしこそ町をあげて、悔いのない計画を立てようではないか。川西の全地域に、ソツカリとした一年の計が立つことによつて、このわが町もまた飛躍的に前進することであろう。

新春のあいさつ

議長 馬場 ト 禅

新年あけましておめでとようござい
ます。町村合併をきわめて円満
なうちに達成し、内外の注目をあ
びて新町の建設にまい進してきた
わが川西町も、ここに第三年度を
むかえることができました。

この間おびただしい事業と、幾
多の施設を完成いたしました。い
よいよ堅実な発展を遂げつつあり
ますことは、一万五千の町民各位
とともに、まことに御同慶にあた
えないところであります。

多難に暮れた昨年度をかえりみ
ますと、学校や保育園、土木事業
や有線放送などの実施を始めとし
て、産業経済面では中子開墾地に
おける十五町歩の開畑や、山王原
十三町歩の開畑などがありまし
た。中子開墾地はすでに完工に
近く、また山王原開畑は本年度の
継続事業として、揚水機の取り付
けや水路の整備など、ことし中に
植付実取を見ることができるよう
に準備しています。地域の人たち
の福利厚生はもとより、将来の町
税収面に大きなプラスとなつてく
れることとしよう。

本年度は多年の宿望であつた下
条橋の起工や、室島橋の竣工を始
めとして、高倉分校や橋小学校の
増築、さらに橋診療所の増築工
事などが予定されていますが、こ
れからの町財政に思いをいたすと
き、必ずしも安いつを許さない状
況が予想されるのであります。

すなわち昨年度の思わざる風水

きょう成人の日

挙式は五月五日に

ことしの成人式は五月五日に行
う予定ですが、これは出かせぎな
どで不在者が多いためです。該当
者は昭和三十三年一月十六日か
十四年一月十五日までに生まれ
た人たちで、約三百名の成人者が推
定されています。(公民館)

合併後はじめて

農業基本調査終る

昨年八月一日現在で実施した、
農業基本調査の結果がまとまりま
した。この調査は耕作面積が一反
歩以上で、農業収入が年間二万円
以上の農家について実施したもの
です。全農家を対象として行なつ
た統計調査としては、合併後初め
のもので、旧町村ごとに耕地面
積や、広域階層別の集計を出して
あります。別表のような統計を毎
年少しずつ掲載する予定です。詳
細を知りたい方は役場に問い合
わせてください。(庶務係)

外施費面における経費の節約など
について、中村町長ともよく話し
合い、健全財政のもちかたを十分
考慮して、町の将来に悔いのない
施策をとつてゆくつもりでおりま
す。

町民各位の御多幸と、御繁栄と
を心から祈念申しあげ、今後の御
協力をお願いして新春のあいさつ
といたします。

広狭階層別経営土地面積および農家数

広狭階層	経営地				その他の経営地						
	総面積	農家数	総面積	農家数	総面積	農家数	総面積	農家数			
総計	155072	2073	96557	2090	45484	950	13031	618	10508	1679	178957
3反未満	3855	143	1903	168	1908	7	44	24	152	96	6503
3反~5反	15517	379	9455	379	5518	75	544	109	1077	273	26016
5反~1町	81033	1111	50436	1111	24828	543	5774	360	5780	901	94578
1町~15町	46741	395	29454	386	11668	289	5619	120	3406	364	42258
15町~2町	5975	36	4013	36	1128	29	834	3	43	36	3790
2町~3町	1941	9	1296	9	429	7	216	2	50	8	737
例外規定の農家	10			1	10					1	75

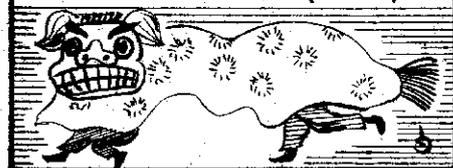
川西町役場

町長 中村 壮吉
収入役 押木 利成
ほか職員一同

議会議員

議長 馬場 ト 禅
副議長 南 章 中仙田
議員 沢口 由蔵 下平新田
高橋 惣八郎 高倉
田村 才一郎 室島
高橋 信吾 赤谷
小川 駒治 岩瀬
和久井 精一 木落
丸山 宗太郎 下原
齊藤 寿美翁 山野田
田中 金造 小白倉
黒島 豊二 伊友
須藤 亮助 仁田
平野 圭二 東善寺
増田 忠治 室島
川崎 清栄 桐山
江口 初太郎 小白倉
滋野 一郎 野口
数藤 治郎 沖立
市川 富二 中屋敷
平野 義一 上町
小海 八太郎 小根岸
田中 与三郎 山野田
和田 光興 仁田
富井 正治 上野
小林 伝司 中屋敷

新年賀



選挙管理委員

委員長 丸山 寛治 原田
委員 南 俊平 中仙田
星名 忠太郎 霜 条
星名 吉栄 元町
高橋 喜栄 高倉
平野 梅作 東善寺

町政事務嘱託員

中島町 相崎 福治
山野田 齊藤 仁太郎
発賣所通 相崎 正平
公舎西組 五十嵐 一郎
公舎東組 荒海 広喜
下平 田中 利八
四郎兼 平野 益三
東善寺 渡辺 熊治
上町 丸山 壮二
中央町 南 章 乙松
田中 野上 菊三
神社町 春吉 喜平
学校町 北村 文太郎
中屋敷 南 章 真一郎

農業委員

寺尾 眞吉
木島 眞吉
木島 公舎 天城 米作
沖立 数藤 孝平
伊友 村山 義雄
高原 高橋 英治
坪山 高橋 茂雄
霜 条 蔵 準司
鶴吉 田村 辰巳
平見 市川 準平
中仙田 樋口 辰治
室島 川崎 豊吉
室山 桑原 正一
小脇 齊木 利栄
高倉 高橋 孫市
霧谷 市川 宗平
藤沢 佐藤 忠蔵
田戸 押木 仁吉
越久 小川 辰治
赤谷 登坂 久平
岩瀬 金子 権三郎
大倉 中条 正次
大倉 長三 三太郎
小白倉 田中 金造
原田 丸山 寛治
根 藤田 増三郎
下原 丸山 宗太郎
野口 村越 太郎
仁田 小幡 義布
塩辛 藤善 治
寺ヶ崎 山崎 正徳
木落 田中 慎治
上野 眞井 正治
元町 押木 福松
星名 新田 星名 刀雄
田代 中島 廣
新町 丸山 仲泰
下平 上村 義雄
三領 水品 正一郎
小根岸 小海 八太郎
原 喜多村 計二

会長 中村 壮吉 中屋敷
会長代理 野沢 秀保 野口
委員 小川 邦男 赤谷
水品 正一郎 三領
丸山 恆正 高原 田
引蘭 徳太郎 坪山
小島 謙作 新町 新田
南 章 俊平 中仙田
小林 猪作 中仙田
小川 富治 岩瀬
水落 達一 仁田
馬場 下禅 元町
北村 周平 上町
柄沢 佛二 沖立
押木 喜平 元町
白井 源次 寺尾
齊木 和市 高倉
茂野 寅一 藤沢
泰野 誠一郎 仁田
樋口 辰治 中仙田
田村 誠治 上野
川崎 喜一 越久
北村 基 東善寺
高橋 敏晴 大倉
丸山 仁治 原田
田中 慎治 木落
上村 常助 上野
高橋 利吉 室島
藤善 清助 塩辛

人権擁護委員
奥山 湖南 伊友
丸山 豊太郎 原田

1町の財政白書 総額一億六千万円

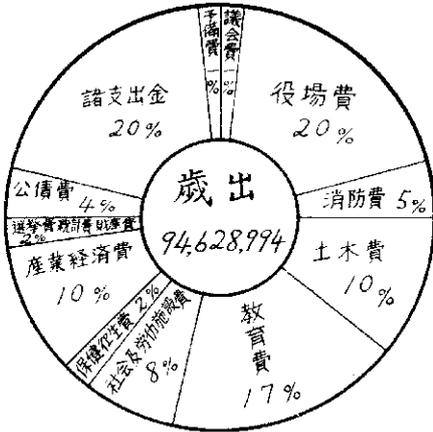
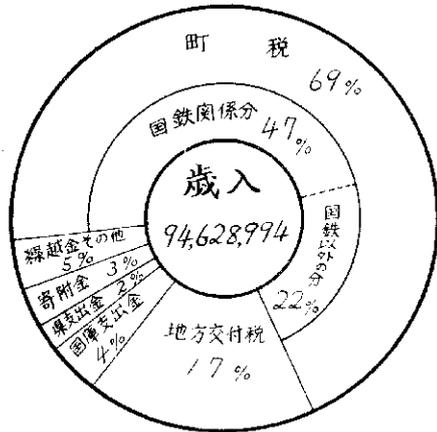
四十パーセントが特別会計

町財政のようすを知りたいといふ質問に答えて、ことしの町予算はどのように使われているのかを調べてみた。昭和三十三年四月一日から三十四年三月三十一日まで)のあらましは、町の歩みや議会報告でお知らせしてきたがきょう現在の町予算は

「町を運営してゆくために必要な健康保険や直営診療所、学校建築費などの特別会計をあわせると、総額一億六千一百六十七万六千五百三十二円。支出額に相当する財源のメドがなければこの予算が成立しないことはいままでもない。

本年度予算の特によきは、何といつても二千三百八十八万円の学校建築費など、特別会計の多額であったことにつきるようだ。

推木収入役の立場



昭和33年度川西町一般会計現計予算一覧 (昭和34年現在)

科目	金額(円)	割合%
1 役員費	18,925,994	20.0
2 消防費	4,731,450	5.0
3 土木費	9,462,899	10.0
4 教育費	16,324,000	17.1
5 保健衛生費	2,443,300	2.6
6 農業経済費	9,462,899	10.0
7 社会福祉施設費	3,731,450	4.0
8 建設費	2,443,300	2.6
9 雑費	2,443,300	2.6
10 雑費	2,443,300	2.6
11 雑費	2,443,300	2.6
12 雑費	2,443,300	2.6
13 雑費	2,443,300	2.6
14 雑費	2,443,300	2.6
計	94,628,994	100

科目	金額(円)	割合%
1 町税	65,348,540	68.9
2 地方交付税	16,324,000	17.1
3 国庫支出金	10,450,000	11.0
4 国庫補助金	4,348,737	4.6
5 寄附金	3,000,000	3.2
6 繰越金	2,443,300	2.6
7 繰入金	2,443,300	2.6
8 雑収入	2,443,300	2.6
9 雑収入	2,443,300	2.6
10 雑収入	2,443,300	2.6
計	94,628,994	100

からすると、どの会計が赤字になつても結果は町の赤字、加えて操作資金をみつけないことが並たいていの苦勞でなく、どの金をどうやリクリするかということが一番の悩みであるという。

歳入歳出ともに町民一人当り一万八百五十円の計算になるが、このうち特に目立つのが教育費(教育委員会、小中学校の経常費)で、児童生徒一人当り四千四百五十二円、学校建築費をあわせると一人当一万六千二百二十七円の金が使われていることになり、わたくしたちの納める税金が決して高いものではないことを示している。

項目別予算額などについては、小川議事事務局長の提供による次の統計を、比較検討していきたい。

教育委員

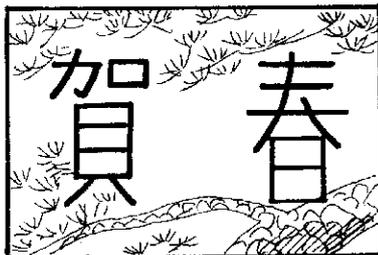
- 委員長 高橋昇太郎 坪山
- 委員 小林 誠治 中仙田
- 小幡 義布 仁田
- 上村 省司 下平新田
- 社会教育委員と公民館運営審議委員
- 委員長 中村 良一 坪山
- 副委員長 酒井信四郎 中央町
- 委員 清水 京平 上町
- 太田 長栄 中央町
- 田中 与三郎 山野田
- 榎熊 恆平 新座
- 大塚 不二男 上町
- 登坂 精一 岩瀬
- 南雲 守 中仙田
- 高橋三代治 田戸
- 南雲 操 中仙田
- 高橋源治郎 赤谷
- 秦野誠一郎 仁田
- 片桐 甚太 木落
- 野沢 秀保 野口
- 星名 昭子 上野
- 渡辺 清麿 上野
- 西山 五郎 下平新田
- 富井 寛蔵 上野
- 北村 準一 東善寺
- 丸山 タイ 東善寺

公民館長

- 川西町 富永 勇
- 千手地区 富永 勇
- 上野地区 樋口 首七
- 橋本地区 藤巻 亮
- 仙田地区 藤本 秀雄

中学校長

- 千手 榎熊 恆平
- 上野 樋口 首七
- 橋本 梶浦新治郎
- 仙田 登坂 精一
- 桐谷小中 浅倉 義信



小学校長

- 千手 富永 勇
- 上野 榎熊 恆平
- 橋本 藤巻 亮
- 仙田 藤本 秀雄
- 白倉 永井 吉平

千手保育園

- 園長 中村 壯吉
- ほか職員一同

高校分校主任

- 千手 須藤 茂一
- 仙田 保坂安太郎

警察官

- 川西部長 藤田 省三
- 巡査部長 藤田 省三
- 巡査 伊藤啓太郎
- 巡査 堀野 光次
- 上野駐在所 板場 政治
- 橋本駐在所 齋木 稔
- 仙田駐在所 佐藤 剛

文化財調査員

- 考古班 佐野 良吉
- 生物班 高橋 友義
- 民俗班 駒形 貞
- 歴史班 上村 政基
- 調査補助員 大海 博
- 南雲 政治

川西町消防団

- 団長 丸山 准一
- 副団長 富井 正治
- 第一分団長 青木 正善
- 第二分団長 清水 守平
- 第三分団長 小林 申一
- 第四分団長 平野喜八郎
- 第五分団長 高橋 佐市
- 第六分団長 清水茂一郎
- 第七分団長 柄沢 政治
- 第八分団長 星名 虎夫
- 第九分団長 星名 昭次
- 副分団長 水品正一郎
- 第一部長 押木 義成
- 第二部長 高橋 実
- 第三部長 押木 喜作
- 第四部長 若山 正一
- 第五部長 上村 繁雄

消防委員

- 委員長 小海八太郎 小根岸
- 委員 市川 富二 中屋敷
- 和田 光興 仁田
- 高橋 信吾 赤谷
- 高橋勇太郎 坪山
- 水品正一郎 三領
- 丸山豊太郎 原田
- 半田 源治 室島
- 丸山 准二 木島
- 富井 正治 上野
- 渡野隆三郎 野口
- 青木 正善 田戸

育英事業委員

- 委員長 中村 壯吉
- 委員 馬場 卜禰
- 小林 誠治
- 星名規矩三

代表的な新語「汚職」

当用漢字表使用上の注意事項に「この表の漢字で書きあらわせないこととは、別のことばにかえるか、または、かな書きにする」と示してある。これは漢字制限の当然の結果であつて、そのために、多くの書きかえ、言いかえの新語が作られたり、かな混りの熟語が登場したわけである。このようにしてできた新語の代表的な例として「汚職」という語がある。

戦前にはどんな大部の字典にも発見できなかったこの語が、現在最も使用度の高いものとなつてゐることは皮肉である。文字がこぼれを表記する手段として生まれたものであるとしても、その発達とともに、逆に文字によつてこぼれが影響され、変えられてゆく。

とにかく、当用漢字、音訓表という枠がはめられた以上、この枠内で表記するという原則は守られなければならないが、実際にはこれだけで決めて簡単なことではない。現在では、さすがに、此、其、云、というよう漢字を使う者はほとんど見かけなくなつたが、致、迄、或、而、等はなお相当使われているようである。これら

は、いずれも当用漢字表にない封鎖漢字であるから、容赦なく追放して一律にかな書きにすれば満足する。しかし、為(ため)、依(よつて)、程(ほど)、度(たい)等は当用漢字表にあつても、音訓表に入らないので、やはりかな書きにしなければならぬ。また、今年、今日、昨日、明日等は、ことし、きょう、きのう、あす、と読ませる場合には音訓表に入らないので、かな書きにするわけであるが、これを、コン、コン、コン、と音読する場合には漢字で書いてよいことになる。したがつて、書くときも、読むときも、その点をほつきり意識して区分しなければならぬ。音訓表以外の読み方を教えられないはずの小学生の作文に、「お母さん」「お父さん」というような用例を意受けるのは、おそろく、おとなの世界の混乱を、子供たちの世界にまで持ち込んだ結果であらうと想像される。

う、あす、と読ませる場合には音訓表に入らないので、かな書きにするわけであるが、これを、コン、コン、コン、と音読する場合には漢字で書いてよいことになる。したがつて、書くときも、読むときも、その点をほつきり意識して区分しなければならぬ。音訓表以外の読み方を教えられないはずの小学生の作文に、「お母さん」「お父さん」というような用例を意受けるのは、おそろく、おとなの世界の混乱を、子供たちの世界にまで持ち込んだ結果であらうと想像される。

例外の例外

しかし、以上はともかく当用漢字、新表記法への放言

「当用漢字」をめぐって

丸山精二郎

字、音訓表の範囲内というたてまえから、むしろ当然の制約であるが、問題はこれらの範囲内であつても、なおかつ、かな書きにするという例外が多いことである。

外來語、動植物の名称等かな書きにすることはいいとして、品詞によつて、かな書きを原則とするもの、なるべくかな書きとするもの等をはじめ、あて字、本来の意味を離れた複合語等はかな書きにする。等々の例外が多いので、当用漢字や音訓表にあつても、い

原則としてかな書きにする品詞

あるから、私、君、及、但、等はかな書きにすべきものであるが、私、彼女、等は教科書や文部省刊行物にも使われている、といった現状だし、なるべくかな書き、と定められている副詞については、逆に漢字を用いていい例外があつたり、複合語の場合は、漢字で書くことと誤読されるおそれがあるもの、一語としての意識が強いもの、その語本来の意味から離れているもの、等はなるべくその全部または一部をかな書きとするがその中でも、漢字で書く慣用のあるものはこのかぎりでない、と例外的にまた例外がある。(文部省「国語の書き表し方」)

その他、こと、とき、どこ、

もの、等は、それが特定のものを指すときだけ漢字で書く、というのであるが、特定が、抽象的かの判定が困難の場合が少なくない。

このような状態だから、どんなに苦心してみても、我流の勘、常識だけで、完全に基準になつた表記を行なうことは不可能だといつてよい。そこで、どうしても字書のお世話にならなければならぬことになる。昔の字書は未知の字句を解明するためのものであつたが、現在ではその文字が当用漢字かどうか、その場合使つてい

いものかどうかを確認するために必要なものとなつた。しかし、日常ものを書く場合、字書と首つ引きで、一字一字吟味しながら書くなどという現象は、離れたまねはしてはならない。文字の末にこだわつていたのでは、中味はおろすになつてしまふ。だから当用漢字では恋文は書けないというのもあるが誇張ではないかも知れない。

簡易水道の布設を計画される方に

水道はその規模によつて、給水人口三千人以上を小規模水道、百人以上を簡易水道、五十人以上を土水道といいますが、布設許可申請をして許可を得てからでないといふ事を行なうことができないことになつてゐます。つまり三千人以上(四一五世帯)で一本の水道をつくつて、これを飲用水にしようというときには、県知事の許可を受けなければならぬというわけですから、許可の条件としては、

- ①飲用水に適した水であること。
②一日の水量が一人当り最少百リットル(五斗九升)以上あること。
③その他となつてゐますが、許可申請の事務的な手続きもありますので、布設計画のある場合にはすみやかに、役場に申し出て相談してください。(国保衛生係)

町の掲示板

- 十一月の行事から
一六日 中子遺跡調査 (慶大)
一七日 信濃川架橋期成同盟会
一八日 産経財政改革委員会
一九日 農業委員会
二〇日 傷病年金受給者説明会
二〇日 消防委員会
二〇・二二日 町議会労働協議会
二四日 九月災害第三次査定
二五日 民生委員代表者会議
町の考古展 (上野小)
二七日 土地改良区役員会
二八日 土地調査説明会

二九日 災害復旧事業打合せ会
遺族会長会
三〇日 役場職員組合定期総会
十二月の行事から
二日 国保連合協議会
役場たより有線放送開始
土地改良区役員会
土地調査審議委員会
産経委員会災害調査
九日 校歌発表会 (仙田中)
二〇日 保育園連合委員会
二〇日 教育委員会
二六日 産経委員会
二七日 民生委員会
一九日 農業委員会
二〇日 土地改良区役員会
二二日 第七回町議会定例会
二三日 町議会協議会
納税組合長会議 (仙田)
二四日 防犯会議 (上野)
土未委員現地調査
二六日 囃子員会議 (上野)
二九・三一日 年末休職
一月の行事から
一日・三日 年始休職
五日 町職員年賀交換会・根雪
六日 消防団出せめ式
七日 教育委員会
八日 選挙管理委員会
一二日 民生委員協議会 (仙田)
一四日 土未委員会
一五日 全町娯楽大会 (公民館)

おことわり
新巻号のため、川西町役場事務分掌表、②炬作の振興を図ろう、③税務応答室のほか、新年のあいさつ、年賀欄、各係からのお知らせなど、たくさんの記事を掲載できない結果になりました。

町議会報告 I

追加予算決まる

昭和三十三年最後の町議会は、十二月十二日に招集された。会期は当初三日間の予定であったが、実際には二日間ですべての案件を議了するというスピード審議ぶりであった。これは提出された議案の大部分について全員協議会や常任委員会において事前に検討が加えられているためである。

上程された議案九件はいずれも原案どおり可決。継続審査となっていた「有線放送施設に関する請願」ほか五件の請願については、それぞれ委員長報告どおり採択と決定。新たに提出された四件の請願は総文委員会に付託となった。

以下、主な議題について、そのあらましを述べて報告とする。

一般会計の追加

五百三十一万

一般会計の追加更正は今回で三回目であるが、今回の追加額は総額五百三十一万円で、主要な費目は土木費百八万円、教育費五十七万、保育所費五十九万、保健衛生費六十一万、産業経済費百八十一万円等である。このうち九月災害関係の復旧費は、専決処分したものを含めると二百七十万円に達しており、その内訳は、土木関係百六十万、農林関係百十萬円で、この中には三万円以上の災害百八件に對する一割五分ないし二割五分の助成金九十八万円が含まれている。この財源としては、地方交付税

山王原開田に

百四十四万

特別会計については、関係、山漁村建設、学校建築の三会計についてそれぞれ追加または更正が行われたが、関係については歳出の一部を更正しただけであつて総額に異動はない。また新農山漁村建設会計は山王原開田事業の国費補助百四十四万円を追加したもので、これはトンネル式に千手土地改良区に交付するものである。

学校建築会計は、最後のしめくりをしたもので、各学校ごとの累計は次のとおりである。

上野小改築費 一六四一千元
白倉校屋体 六一九六千元
楠小増築費 二四八三千元
計 一〇三〇八千元

なお今回の追加額は百三十二万円である。

大倉火災

免税措置

その他の件としては、国家公務員の期末手当増額に準じて、議員並びに一般職員はの期末手当を〇・一

カ月分増額するための条例改正、大倉の火災によつて焼失した家屋等について固定資産税減免の件等を可決した。

和久井議員

表彰さる

去る十一月十七日に行われた第十回新潟県町村議会議長会総会において、川西町では和久井精一議員(木造)が、自治功勞者として本間会長から表彰状を贈られた。和久井議員は楠村当時から連続十二年間議員として地方自治に尽力し、現在町議会議長兼産業経済委員長の職にある。

七件十二戸を焼く 損害六百万円!

きよねんの火事から「無火災の町にするんだことし

こそ」と、毎年いれながら、よその町村に比べるときよねんも火事が多かった。消防団必死の努力にもかかわらず、死者一名のほかに住家、作業場、土蔵などあわせて十二軒を全焼、ナベ底費をよそに六百万の財産を失つたことになる。上野地区では、もう二カ年間も無火災の記録がでていて、おたがいに火事だけは出したくない。ここにきよねんの火事をもう一度ふりかえつて、「ことしこそ無火災の町にしたいものだ。」

一月三日 小脇 一軒(ヒバチ)
二月十三日 四郎兼一軒(取り込)
四月五日 霜条 一軒(育す)
四月十二日 寺尾 一軒(クン炭)
十一月一日 仁田 一軒(吸ガラ)
十二月十七日 大倉六軒(コタツ)
十二月二十三日 寺尾 一軒(電熱)

この里もまた冬を迎えた。わたくしたちの多くは、きょうだいを夫を出かせぎに送っている。昔は「頼まれれば越後からでも米つきにくる」といわれたものだ。時移り人変つても、このことはの中には今でも通じる何かがある。て、いゝろんな意味に使われている。「越後の人は勤勉でしんぼう強い」とはよく耳にすることばである。古い「人国記」なる書物の中で、先人はいみじくもこういつた「人の氣質、性格はその人の育つた自然環境によるものだ」と。

してみると「頼まれれば……」というも「越後の人は……」というも、写真のような気候風土のなせるわざでもあろうか。

(写真は一月五日のメサラン 行黄前にて)

川西小うた



みんなの力で 川西小うたできる

うまれた歌

本紙の第一号紙上に読者芸芸の意味で紹介した川西小うた(田中与三郎氏作詞)はその後各方面から意外なほどの関心をよんだ。

とくに町の音楽愛好者から、楽符や録音テープが数曲もよせられて編集部をあわてさせたが、このほど国鉄勤務の佐藤茂夫さん(中島町)が作曲したものを、小千谷市の被野敏夫さんが編曲、親しみやすい民謡調の歌としてデビューした。なお町では公民館主事の保坂国夫氏が振付を担当、みごとな踊りができあがったが、町の特しよくともいえるべきふるさとの山川が、この踊りの中によく生かされている。町が一般から公募して制定したというものではなくて、いわば町のかたすみから自発的にうまれたものだが、いまあちこちで踊り歌われているので、この歌が大衆の心にアツピールして、全町に普及される日も近いことだろう。

町の人口動態

- よるこびも
- かなしきも
- うさ声一御すこやかに
- 十一月 男 六件 女 七件
- 十二月 男 十件 女 十二件
- たかさご一御門満に
- 十一月 十五組
- 十二月 三十二組
- 昇天一御めい福を祈る
- 十一月 男 三件 女 二件
- 十二月 男 六件 女 五件

室島の小判 近く国の文化財に

町に一枚を寄贈

年の始めの明かるい話題として、まるでウソのような、ほんとうの話を取り上げてみよう。昔から大金持ちが多かったと伝えられる仙田の室島で、小判三千七枚と二分金一個が発見されたのは一年前のことだ。根が善良な村人たちはさつそく所在のダンナに連絡してお伺いをたてたが、その後この小判は県警察本部を通じて、文化財保護委員会の鑑定が行われた結果、このほど国の文化財に指定される旨の内示があり、近く発見者と土地所有者に現物が譲渡されることになった。

問題の小判と二分金は一昨年の十二月八日、室島部落の川崎与太郎さん方で同家のアンサ辰平さん



平和な町に静かな年が明けた。職務とはいえ、年末年始の防犯にとび歩いた警察官にとっては、ことしも無事故の正月が何よりのよこびであったという。だれからも親しまれ、愛される警察であってほしいとねがう筆者に、「犯罪の検挙よりも明かるい環境の育成に重点をおきたい」と語る藤田部長だった。(写真は読末警戒のコマ)

所有者の川崎さんが、等分に分配して保存することに決まったが、両氏からこのうち一枚を「文化財」として十分に活用してほしい」ということで、町教育委員会へ寄贈したいという申し入れがあり、その理解ある配慮は町当局を喜ばせている。なお田村さんも川崎さんも、いまのところ売却の意思はなく、家宝として未永く保存しておきたい意向であり、この町に博物館のような陳列機関があれば、その全部を提供したいといっている。で、各方面から適当な保管施設の実現を希望する声がつよい。

八千五百人が有権者
選挙人名簿確定

きよねんの十二月二十日付で、基本選挙人名簿に記載された町の有権者数が、次のとおり確定しました。ことしは選挙の年だといわれていますが、県知事、県議会議員の一般選挙が四月二十三日に、参議院議員通常選挙が六月上旬に、またこの町では、千手土地改良区一般選挙が七月中旬に、それぞれ予定されておきます。

(選挙管理委員会)
総数(有権者数) 八、五三七二人
総数の1-5の数 一七一人
総数の1-3の数 二、八四六六人

庁内めぐり(4) 出納係の巻

新春にちなむ庁内めぐりは、押本収入役を補佐して町のサイフをニギル係。町民の与望にならう町

町の声

雪と道
細くて歩きにくい雪道が、わたしたちに与えられた。ただ一つの交通路となる季節になりました。この雪の功罪は別としても、わたしたちが井戸道と形容するほどの狭い雪道を、汗を流しながら歩かなければならない苦勞は、この先はどうか。現在では雪国の住民だけに負わされた宿命です。

でも、このような寒々とした雪の道中も、わたくしたちひとりひとりの心のもち方で、心の中にあたたかいものをいいたい。

た。楽しいものにするのができるはず。遠い昔の祖先からいって、つしあつちかわれ、伝えられてきた雪道の道徳——それはお互いの譲りあいからでた雪道の、美しいゆきがらみです。そのとき道をいけてもらった側で言う「ありがたう」のひとこと、譲つた人は時間の空費もヤブに入つたわづらわしきも、みんなムダでなかつた気分になり、「ごころうさん」のことばが、自然に口からでてくるのではないのでしょうか。

壮者が老人や子供に、腰刀が婦人に、荷物を持たない人が持つた人に、歩行者がソリヒキに、道を譲る心……。民主主義のうんぬん

困る人にオラの会費を 比島会が寄金

グループ活動が盛んになって、しばしば行われてきた話し合い学習が建設的な方向へとすすんできているおりに、みんなの話し合いで会費の一部を歳末たすけ合の資金に寄贈した、美しいグループがある。千手に結成されている比島会(会長松谷吉吉氏)がそれだ。年の瀬を控えて生活に困っている人たちが、少しでも明かるい正月を迎えられるようにと、旧ろう平野政義(上町)数藤彦三(町教委勤務)の両氏が代表して町社会福祉協議会を訪れ、新年会費に充てられていた一千八百円を寄金した。この比島会は戦時中ガダ

や道徳教育のせむを論ずる前に、雪の降らない土地の人には経験することのできないこの行いを、自然な感謝のこほであらわしたいものです。

雪国だけにあるこの美しい行いが、たとえ小さなさやかなことであつたとしても、それが集団社会の形成にたいせつな基礎となり、やがてはわたしたちの、住みよい町づくりにもつながつてくるのではないのでしょうか。(下平新田、上村生 三十四才 農薬)

△係から——ほかに、「雪道の生理はあとをきれいに」という意味のものを含めて、十二通の投書がありました。

ルカナルからフィリピン全域にわたつて、幾たびか死線を越えてきたつわもの九人の集まりで、あるとき死んだつもりでもういちどつばな社会人にならうと、オヤジ教育のかたわらおたがいに助けあい、励まし合つてこれからの町づくりにすすもうという人たちがあつて、毎年一回死んだ気になつて、トコトコまで飲むことを何よりの楽しみとしてきたが、ことしはその金を節約してこの美事に困るのである。

◎なおこのほか歳末たすけ合のために、次の各氏からもあたたかい寄金があつたことをお伝えしておく。

◎川西各宗寺臨終光会(会長大溪不二氏)から四千円
◎仁田の山口義一氏(山口屋商店主)から七百円
◎商工信用の清水信一氏(中屋敷)から五百円

昔は悲しお正月

上村 政 基

「オメデトウゴザイマス」と行き交う人たちが声をかけてくる。平和な、ひとりひとりが平等なお正月——わたくしは毎年このながら、「けつこうなお正月で」ということは、いいようのない心のヌクモリを感じる。

町の文化財調査の仲間入りをさせてもらって、ここ半年ばかりの間、いろいろな資料を見ることのできた。主として千手の担当であるので、千手の南雲政治さんと大海博さん、上野の星名正守さんたちから好意あられる指導をうけ、また伊勢平治の長徳寺さんには、三十二年の興文化財総合調査以来お世話になっている。

古文書、古記録を見ると、封建時代の主従の關係が、今日ではチヨツト想像することのできないくらい、格式ぶつたものであることに気づく。「けつこうなお正月で」などと、冗談にでも言えないような農民の生活——わたくしたちは、もう二度と、こんな世界にもどらないように努力を続けたい。

今から百五十年くらい前に書かれたものによると、元日に若水を汲んで、豆がらで火をたきつけるのはどこでも同じだが、その内容には幾通りかの段階がある。庄屋、組頭、百姓代（または長百姓）など、村方三役といわれるような上層に属する家では、雑煮餅を祝うことができる。その次の中農は「イリゴ餅」になる。その下の水

のみ百姓や名子（ナゴ）又はナンゴと読む。たち下農では、団子雑炊を食べることしかできない。

こういつた区別は経済的な面からも鮮明されるけれども、むしろ、上中下の格が定まつていて、下農のものが白い餅など食べようものなら、「出過ぎたマネをするな」とさつそくオサエツケラレ、村八分にされてしまうような体制が、つくられていたと考えるほうが正しい。

年始まわりだつて全く同様である。大煎煎（この辺では山谷の酒井さん）は麻かみしも、庄屋など村方三役は羽織袴、年貢を納めている一人前の百姓（帳付百姓、本百姓などと呼ばれた）は袴をつけずに羽織だけ、最下位層の百姓は正月着物などともない話で、オンボロのツギハギそのままであつた。ひどいものになると庄屋地主などへあいつに行つても十間にはいつくばつて、団子カユをこちそうになるのが関の山という、悲しい人たちもあつた。

きようこのころのお正月は、町を歩くのがホントに楽しい。おとも子供もキチンとした身なりで、明かるい顔を見せているお正月、酒の嫌いなわたくしのようなものでも、年一回くらいはほおをホノノリと染めて歩く——ところが村方三役のところでは、清酒を飲むことが許されても、自分たちは濁酒しか飲めなかつた農民たち。

ハナヤカな、見るだけで楽しい若い娘さんたち。昔はどを向いても、紺一色の着物はかり、（染物屋は紺色だけしか染めなかつたので、今でもゴヤドンといわれるようになった）たまに変わった色があれば、それはネズミ色か、柿色の縞模様だつた……。

わたくしたちが歴史を好きだなどというとき、きまつて「昔のことなんか調べて何になるんだい」と言われる。でも、わたくしたちの祖先や、先輩がつくり上げてきた生活について、長所と短所を分けて考える批判力を養ひ、わたくしたちがいま作りつつある現代の歴史に、一つでも短所欠点を少なくするように努めてゆきたい。

「ひとつを描く」ということが俳句通にありますが。十七字しかない字数のなかに、あれもこれも入れることはまけてください。「余白をのこす」とさえいわれてます。すつきりと、あつさりと叙してください。季がさねといつて、一句のなかに季節をいくつも入れることは望ましくありません。季節の種類にどんなものがあるかというところを、しつかり頭に入れて俳句をお作りください。一句ができましたら、舌頭に干転するといわれます。なんべんも

俳句とは

金山 柏樹

「ひとつを描く」ということが俳句通にありますが。十七字しかない字数のなかに、あれもこれも入れることはまけてください。「余白をのこす」とさえいわれてます。すつきりと、あつさりと叙してください。季がさねといつて、一句のなかに季節をいくつも入れることは望ましくありません。季節の種類にどんなものがあるかというところを、しつかり頭に入れて俳句をお作りください。一句ができましたら、舌頭に干転するといわれます。なんべんも

くりかえし、口ずさんで見てから手帖に書きこんでください。虚子先生は一年たつたものを旬日記として、ホトトギスに発表しております。（原文のまま）

○俳句に旧かなを使つていられるようですが、できるだけ新かな使によつて作句してください。

○投句の中、編集部において若干てん跡して掲載したものがあります。お含みおきください。

○次号のメ切りは二月末日です。

かわにし俳壇

赤谷 仙子

羽子の音暮れつともなお確かなり末つ子の人形だいて羽子つける
中仙田 竹治

なが雨をおきななこちて儂編む落葉して明かるき家やかけ大根
中仙田 千月

張りかえし障子あかるき初鏡
小白倉 玉章

暖冬の日だまりにいてよく釣れる
赤谷 睡月

雪原にますぐの一路光るなり
岩瀬 桂子

老農夫大いなる手を炉にかざし
元町 鉄平

誘われし旅あきらめてみかん食う
小白倉 凡石

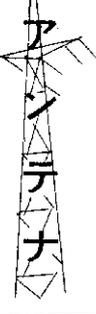
凧や雲ちぎれてはちぎれては
岩瀬 みどり

わがカゼの妻よりからし飯を炊く
新町 八重子

枯菊がひとかたまりの雪のせて
野口 恵風

からやかにかせく工夫ら霜柱

「ひとつを描く」ということが俳句通にありますが。十七字しかない字数のなかに、あれもこれも入れることはまけてください。「余白をのこす」とさえいわれてます。すつきりと、あつさりと叙してください。季がさねといつて、一句のなかに季節をいくつも入れることは望ましくありません。季節の種類にどんなものがあるかというところを、しつかり頭に入れて俳句をお作りください。一句ができましたら、舌頭に干転するといわれます。なんべんも



X部落の「やつこ屋」といえば、近在では誰知らぬものがないほど名の知れた豆腐屋さんだ。

このオトトがまた話好きの反面、たいへん記憶力のよい人で、「どこをこのとしよりがなくなつたのは何年の何月で、そのときは何丁の豆腐を使った」とか、「あそこのアネサが嫁にきたのは小雪の年の春で、振舞には豆腐が何丁」というようにまるで大福帳そののけ、それだけに村中の生活状態が、テレビにでも写し込まれたようによくわかるのだつた。

ふぶきにあげられたある夜のこゝと、となり部落のMさんがたずねてきた。「あしたの晩までに豆腐を十丁ほしい」というのである。

オトトが「お前さんの家は何ゴツタクをサツシヤル」とときくと、「セガレの嫁がやつと決まつて、はやりの公営結婚でもしたら、はやりといどもみんながハイカラだ」といふので、あしたアジイだて」という答えだつた。

Mさんが帰つたあとでオトトは考へた。「ハテ、Mさんの家でアジイをするとお客がこれこれで働きの何人、格式からいうとしかじかのこちそうかな……」数えてみるとどうしても五丁足りない。そこでやつこ屋さん、頼みもしないのに余分を五丁作つておいた。あくる日Mさんの働きの家は十丁受取つて帰つたが、その日の夕方あたふたと駆けこんできたMさんは言つたのである。

編集後記

「広報なんて読む気がしない」とか「字がギツシリ詰まつているだけでウンザリだ」といつて、写真だけ見てあとはふりむかないような人がいないだろうか心配です。状態に入れられる前にもういちど、よくごらんいただけないでしょうか。

◎きたるべきものがついにきました。雪に生まれ雪に育ち、雪に生きるわたくしたちです。「雪が嫌だ」と嘆くよりも、雪国ならではの良さを味わつて春を待ちましよう。

◎冬の夜、なんとなく落着きが出てきます。いそがしくて中止していた話し合い学習も、できればこの期間にはん回したいものです。遅くなつて帰る冬の夜みちにも、また風流さはあります。

夜行く袖にたまる雪かな
(景樹)

してもあと五丁くらい足らんテ、何とかならんべか……」

サテここで、よく考えてみよう。Mさんの家のゴツタクのことを、本人よりもやつこ屋のオトトがよく知つていたというお話、他人の私生活に過ぎた関心をよせることと、セヒはさておき、マキヤイチモン衆の顔ぶれしきたりを、だれもが知りすぎている現実……日ごと近代化してゆくこの町で、ちよいちよい見かける、封建性的な名ごりともいふべきであろうか。

◎「広報なんて読む気がしない」とか「字がギツシリ詰まつているだけでウンザリだ」といつて、写真だけ見てあとはふりむかないような人がいないだろうか心配です。状態に入れられる前にもういちど、よくごらんいただけないでしょうか。